

一般演題P2-6

群馬大学医学部附属病院における高気圧酸素治療の開設から現在まで

早澤哲弥¹⁾ 中山雅俊¹⁾ 金田智子¹⁾
 畑中孝文¹⁾ 田島行雄¹⁾ 齋藤 繁²⁾
 竹吉 泉³⁾

- 1) 群馬大学医学部附属病院 材料部 ME機器部門
- 2) 群馬大学医学部附属病院 麻酔神経科学
- 3) 群馬大学医学部附属病院 臓器病態外科学

【はじめに】

当院は、第I種と第II種の高気圧酸素治療（以下HBO）装置の保有施設であり、1971年に開設以来今年で42年間の治療実績がある。今回我々は開設からの治療実績を集計し治療実態について若干の知見を得たので報告する。

【対象と方法】

1971年4月から2013年3月までの42年間にHBOを施行した4,221症例を対象に、延治療回数、装置稼働数、診療報酬、疾患別症例数について年間推移を算出した。

【結果】

治療回数は延65,506回（年平均1559.6回、100.5症例）であった。装置稼働数は25,064回（第I種10,593回：年平均252.2回、第II種16,741回：年平均398.5回）稼働であった。診療報酬は救急的が延2,409回、非救急的が延63,097回（年平均：救急的57.3回、非救急的1502.3回）であり、救急的は全体の3.7%であった。疾患別症例数は上位より、突発性難聴1990例（47.1%）、慢性末梢循環障害783例（18.6%）、顔面神経麻痺441例（10.4%）、腸閉塞196例（4.6%）であった。

【考察】

第I種装置の治療回数が1996年以降は激減している。これは同年の第I種装置爆発事故を受け純酸素加圧を施行しないこととなったためと考えられる。救急的件数は、近年やや増加傾向にはあるものの全治療の3.7%と少なかった。これより保険点数の非常に

少ない非救急的件数が大多数を占めているため、病院の収入は少ないと考えられる。定期的な点検により高額な維持費がかかるHBOにおいて安全な治療を実施するためにも、適切な診療報酬の改定が必要であると考えられた。

【まとめ】

HBOの認識を広め、治療件数の増加を目指すとともに、HBOの存続のためにも診療報酬の改定が必要である。

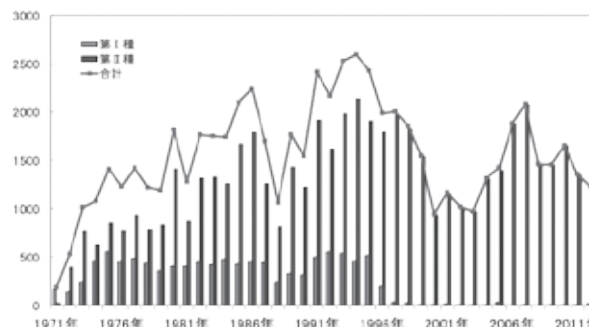


図1 延治療回数

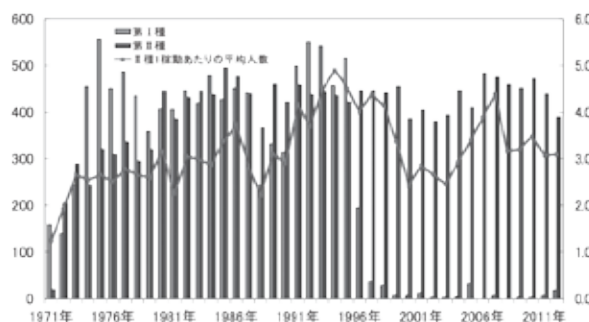


図2 装置稼働数

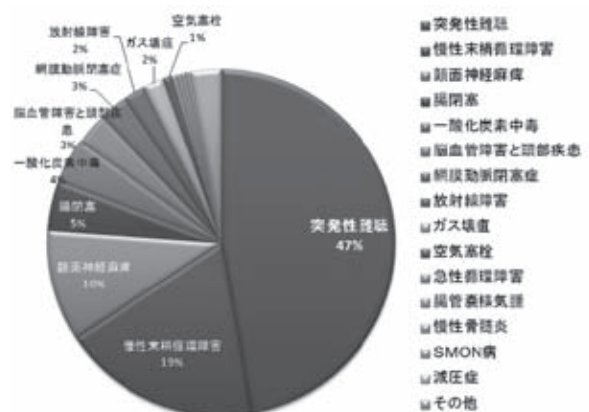


図3 疾患別症例比率